

## 6 IB 認定校における TOK の具体的な単元の指導事例

※掲載している指導事例は、TOK の趣旨を踏まえ、各学校の創意工夫によって実施しているものであり、これら事例をそのまま実施するのではなく、これらの事例も参考に、地域や学校、生徒の実態に応じた創意工夫により特色ある授業を行うことが求められます。

# 立命館宇治高等学校


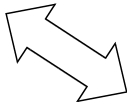
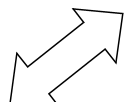
立命館宇治高等学校では、TOK の学習目標として以下の5つを掲げている。

- ①批判的に思考し、問い直しができる能力を養う。
- ②「知るための方法」と「知識の領域」内で、どのような知識がどのように獲得されるのかを理解する。
- ③「知るための方法」、「知識の領域」、そして文化的知識の範囲を確認する。
- ④「知るための方法」と「知識の領域」から人間の知識とは一体何なのかを考究する。
- ⑤「知るための方法」と「知識の領域」から得られる知識から、「重大な問い (big issue)」の答えを探究する。

このため、IBO が定めた評価規準を踏まえ、知識の領域に対する理解、学習者の思考力、各単元で意識すべき視点の理解といった観点で独自の評価規準を設け、総括的な評価を行っている。さらに、授業参加度、ノートテイキング、宿題といった日常の学習活動に対する評価規準も設け、形成的評価を行っている。

※以下に掲載する3事例のうち、1つ目の事例は IB クラスの事例であるが、2つ目及び3つ目の事例は、一般クラスの事例である。

## TOK指導案 TOK概論に関する事例

<p>1 単元名 「TOK」概論</p>
<p>2 学年 高校2年</p>
<p>3 各概念の統合</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><b>「TOK」のどのような部分を学習するのか</b></p> <p>①人はどのような方法を用いて「知識」を獲得するか。</p> <p>②「知るための方法」はお互いにどのように異なるか。また、私たちは「いつ」、「どのような理由で」それらを選択するか。</p> </div> <div style="text-align: center; width: 10%;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><b>生徒の理解が期待される概念</b></p> <p>①「知識」を定義するのは難解であり、複数の「知るための方法」を使って物事を知ろうとするとき、何が真実かを定義するのは難しい。</p> <p>②学問分野は互いに境界・範囲を持つが、重なり合う部分もある。TOKの「知識の領域」内の6つの領域が人の知識全てを表すということではない。</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p style="text-align: center;"><b>学習活動における重視すべき視点</b></p> <p>①「知識の領域」において、「知っている」とはどういう意味か。</p> <p>②「知識の領域」内の各分野に基づき、私たちが当然だと考えられることは何か。</p> </div>  </div>
<p>4 単元の目標</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自身の知識に対して、批判的な見方をすることができる。DPで得た知識に対し批判的な問い直しができる。また、正しいと思われることをそのまま鵜呑みにせず、批判的視点を持つことができる。</li> <li>○知識を問う問題を探求し、その問題を自身の経験に重ねて考えることができる。</li> <li>○「知るための方法」と「知識の領域」が相互に作用し合いながらどのように知識形成に結び付くのか、また知識獲得をどのように制限するのかを考察し、分析することができる。</li> <li>○人は文化的規範、価値観、構造、共通認識に影響を受け、「知識」をどのように形成するのかを考察し、議論することができる。</li> <li>○第三者的視点から、自分たちの文化における文化的規範、価値観、構造、共通認識を批判的に見つめ直すことができる。</li> </ul>
<p>5 使用する教材等</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>① International Baccalaureate(2008)「Theory of Knowledge Guide : For First Examinations 2008」</li> <li>② Theory of Knowledge : Understanding Knowledge Issues IB issued document. (資料1－4参照)</li> <li>③ Richard van de Lagemaat(2005)「Theory of Knowledge for the IB Diploma」(Cambridge University Press)</li> <li>④ Carl Jung(1989)「Memories, Dreams, Reflections」</li> <li>⑤ Michael Bach「98 Visual Phenomena &amp; Optical Illusions」 <a href="http://www.michaelbach.de/ot/">http://www.michaelbach.de/ot/</a></li> <li>⑥各教員が担当分野についてまとめた「〇〇とは何か」というプリント (資料4－1参照)</li> </ul>

## 6 単元の指導過程

	学習活動	指導上の留意点及び評価
<p>第1時限目 TOKについて</p>	<p>(1) グループ討論：「知識とは何なのか」</p> <p>(2) 全体討論：知識についてクラス全体で話し合い、話し合った内容について簡単なレポートにまとめる。</p> <p>(3) 発展学習：比較と対比（TOK と哲学と倫理学） TOKの本質を理解できるよう、教員はTOK と哲学と倫理学の比較に関する説明をする。</p>	<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <p>TOK ダイアグラムのプリントを配布し、以下のような TOK の基本について理解を求める。</p> <p>① IB ヘキサゴンの中央に位置する TOK。知識とは何か。</p> <p>② 「学習者」、「知るための方法」、「知識の領域」からなる TOK ダイアグラム</p> <p>③ TOK の本質：学際的・学融合的な科目としての TOK。倫理や哲学とは異なるものである。</p> <p>&lt;評価&gt;</p> <p><b>形成的評価</b></p> <p><b>評価規準2：ノートテイキング</b></p> <p>宿題として、教材③ 4～7ページの知識の問題に関する導入、常識などに関する文章を読み、ノートに要点をまとめる。</p>
<p>第2時限目 批判的な問い直しとは</p>	<p>(1) 宿題で読んだ内容を議論 「地図がいつも現実の世界を反映しているとは限らない」という言葉の意味についてグループで議論する。</p> <p>(2) 「知識のなぞなぞ」に関する議論と発表。次の質問についてグループで議論し、話し合った内容をクラスで発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もいない森で倒れた木は、音を立てるのか。</li> <li>・どの方向から音は聞こえるか。</li> <li>・色とは何か。またなぜそこに色が存在するということが分かるのか。</li> <li>・錯覚について</li> </ul>	<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の見ている物に対して常に批判的な目を持つように導く。</li> <li>・「知っている」と思っていることが本当に正しいかどうか確かめるために「錯覚」を利用することはこのレッスンにおいて非常に有効であり、教材④⑤のような教材を用いる。</li> </ul> <p>&lt;評価&gt;</p> <p><b>形成的評価</b></p> <p><b>評価規準1：授業参加度</b></p> <p>授業でのグループワークや討論への参加度を評価する。</p> <p><b>評価規準3：宿題</b></p> <p>自分が持つ知識のメンタルマップを作成（頭の中にある知識の映像を実際に描いてみる）し、次の授業で自分のメンタルマップを説明できるようにしておく。</p>

<p><b>第3時限目</b> Knowledge Issue について</p>	<p>(1) 宿題を回収する。</p> <p>(2) 実生活の中で見られる Knowledge Issue の例を挙げる(板書)。 例)「おじが針治療に行った」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的な医術。(Knowledge Issue になっていない。テーマに過ぎない。)</li> <li>・針治療は効くのか。(あまりよくない例。「はい」や「いいえ」で片付く質問で、広がりがない。)</li> <li>・針治療が効くかどうかはどのようにして判断できるのか。(普通レベルの例。様々な答えが想定される。)</li> <li>・科学的説明において説得力があるかどうか何によって決まるのか。(知識へとつながるよい例。活発な議論が期待できる。)</li> </ul> <p>(3) グループワーク：2つのトピックに関して、教材②のチャートを完成させることにより、実際に自分で Knowledge Issue を作ってみる。</p> <p>(4) グループごとにクラスで Knowledge Issue についてのプレゼンテーションを行う。</p> <p>(5) 宿題を提示。</p>	<p><b>&lt;指導上の留意点&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Knowledge Issue について、様々な答えが想定されるような問いであることや、活発な議論に発展する問いであることが重要であるということを理解させる。</li> <li>・ 教材②"Understanding of knowledge issues" (資料1-4参照)を使用する。</li> </ul> <p><b>&lt;評価&gt;</b> <b>形成的評価</b> 評価規準1:授業参加度 グループワークとして Knowledge Issue についてのプレゼンテーションの準備を行う。 評価規準3:宿題 Knowledge Issue に関するプリント(教材②)を完成させる。例を参考に、実生活の中で見られる Knowledge Issue を3つ挙げ、ノートに Knowledge Issue についての考えをまとめる。</p>
<p><b>第4時限目</b> 「自身の知識を問い直すフォーラム」について</p>	<p>(1) 宿題を回収。</p> <p>(2) 「自身の知識を問い直すフォーラム」について目的と評価について説明する。</p> <p>(3) グループ分けをし、「2つの質問」(3の「学習活動における重視すべき視点」参照)について考えを出し合う。 グループごとに「知識の領域」の中から1分野を選んで行う。</p> <p>(参考) 自分の知識を問い直すフォーラム 目的) ①知識の領域に関する生徒の理解を深めること ②生徒のクリティカルシンキングのスキルを向上させること ③他の DP 担当教員が TOK の授業を担当することにより、DP のカリキュラムを融合すること 評価) 総括的評価の3つの評価規準により生徒の発表を評価する。(7参照)</p>	<p><b>&lt;指導上の留意点&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「批判的問い直し」の重要性を再確認する。</li> <li>・今回の授業から教員2人体制で授業を行うことが理想。教員は自身の専門教科でないグループを担当する。(教員は「教える」のではなく、あくまでファシリテーター役。)</li> </ul> <p><b>&lt;評価&gt;</b> <b>形成的評価</b> 評価規準1:授業参加度 グループワークにおける「2つの質問」に関してのブレインストーミングへの参加度を評価する。 評価規準2:ノートテイキング 「2つの質問」に関して生徒がノートに書き留めたメモを評価する。</p>
<p><b>第5時限目</b> 「知識の領域」について</p>	<p>(1) 担当教員が「・・・とは何か」という問いについて講義を行い、生徒は疑問点などをメモする。</p>	<p><b>&lt;指導上の留意点&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークにおいて、教員は机間指導し、グループごとの</li> </ul>

<p>て①</p>	<p>①自然科学 ②芸術 ③歴史</p> <p>(2) グループワーク：講義の内容をもとに「知識の領域」に関する「2つの質問」に対する考えを深める。</p> <p>(3) 宿題を提示。</p>	<p>学習進度を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員は、自分の担当分野について考えをまとめたプリント（資料4-1参照）を用意して講義を行う。</li> </ul> <p>&lt;評価&gt; <b>形成的評価</b> <b>評価規準1:授業参加度</b> グループワークにおける「2つの質問」に対する考えの熟成度を評価する。 <b>評価規準2:ノートテイキング</b> 今回学んだ領域（例えば「歴史」）に関しての質問を考え、ノートにまとめる。（全ての教科領域のレッスンを終了するまでには、質問リストを完成させる。）</p>
<p>第6時限目 「知識の領域」について②</p>	<p>(1) 担当教員が「・・・とは何か」という問いについて講義を行い、生徒は疑問点などをメモする。</p> <p>①数学 ②倫理学 ③ヒューマンサイエンス</p> <p>(2) グループワーク：講義の内容をもとに「知識の領域」に関する「2つの質問」に対する考えを深める。</p> <p>(3) 宿題を提示。</p>	<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークにおいて、教師は机間指導し、グループごとの学習進度を確認する。</li> <li>・教員は、自分の担当分野について考えをまとめたプリント（資料4-1参照）を用意して講義を行う。</li> </ul> <p>&lt;評価&gt; <b>形成的評価</b> <b>評価規準1:授業参加度</b> グループワークにおける「2つの質問」に対する考えの熟成度を評価する。 <b>評価規準2:ノートテイキング</b> 今回学んだ領域（例えば「数学」）に関しての質問を考え、ノートにまとめる。（全ての教科領域のレッスンを終了するまでには、質問リストを完成させる。）</p>
<p>第7時限目 「自身の知識を問い直すフォーラム」の準備</p>	<p>(1) 各グループでフォーラムの準備を進める。（フォーラムは学校図書館で開催。）</p>	<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <p>教員は生徒がグループで書き上げた質問が知識の本質を問い、様々な議論を呼ぶような質問であるかを確認する。</p>

		<p>&lt;評価&gt;  <b>形成的評価</b>  <b>評価規準1:授業参加度</b>  グループでのフォーラムの準備への参加度を評価する。</p>
<b>第8、9時</b> <b>限目</b> 自身の知識を問い直すフォーラム	(1) グループ単位で、各分野を担当する教員に質問し、話し合いを行う。(各グループ10分+質疑応答) ①自然科学 ②芸術 ③歴史 ④数学 ⑤倫理学 ⑥ヒューマンサイエンス (2) 最優秀グループを選出する。(IBコース3年生、又はフォーラムに関わりのない教員がジャッジを担当)	<p>&lt;評価&gt;  <b>総括的評価</b>  IBO が作成した TOK の評価規準に基づいて作成した評価規準(7参照)によりグループ発表を評価する。</p>

<b>7 評価規準(付けたい力)</b>											
<b>(1)総括的評価</b> 「自身の知識を問い直すフォーラム」におけるグループ発表について、以下の3つの規準により評価する。(以下の評価規準は、この課題に合わせて作成されたものではあるが、他の TOK 課題にも準ずるものとなっている。)											
<b>&lt;規準A&gt; 「知識の領域」</b> ・ 討論の中で、学習者の発言は「知識の領域」に対する理解、また「・・・とは何か」という問いとの関連性を示したものだっか。											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達度レベル</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>レベル1の程度に満たない。</td> </tr> <tr> <td>1-2</td> <td>学習者は「知識の領域」をほとんど理解していなかった。また「・・・とは何か」の問いに対し、関連性のない返答が多かった。</td> </tr> <tr> <td>3-4</td> <td>学習者は「知識の領域」を理解していた。また「・・・とは何か」の問いに対し、関連性のある返答が多かった。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学習者は「知識の領域」を深く理解していた。また「・・・とは何か」の問いに対し、十分関連性のある返答ができた。</td> </tr> </tbody> </table>	到達度レベル	内容	0	レベル1の程度に満たない。	1-2	学習者は「知識の領域」をほとんど理解していなかった。また「・・・とは何か」の問いに対し、関連性のない返答が多かった。	3-4	学習者は「知識の領域」を理解していた。また「・・・とは何か」の問いに対し、関連性のある返答が多かった。	5	学習者は「知識の領域」を深く理解していた。また「・・・とは何か」の問いに対し、十分関連性のある返答ができた。	
到達度レベル	内容										
0	レベル1の程度に満たない。										
1-2	学習者は「知識の領域」をほとんど理解していなかった。また「・・・とは何か」の問いに対し、関連性のない返答が多かった。										
3-4	学習者は「知識の領域」を理解していた。また「・・・とは何か」の問いに対し、関連性のある返答が多かった。										
5	学習者は「知識の領域」を深く理解していた。また「・・・とは何か」の問いに対し、十分関連性のある返答ができた。										
<b>&lt;規準B&gt; 「学習者の思考力」</b> ・ 討論の中で、学習者は主題に対して明確な考えを持ち、論点に沿った話し合いができていたか。											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達度レベル</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>レベル1の程度に満たない。</td> </tr> <tr> <td>1-2</td> <td>学習者は自分の考えを主張することができず、主題に沿った議論ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>3-4</td> <td>学習者は自分の考えを主張することができ、ほぼ主題に沿った議論ができた。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学習者は自分の考えを明確に主張することができ、十分に主題に沿った議論ができた。</td> </tr> </tbody> </table>	到達度レベル	内容	0	レベル1の程度に満たない。	1-2	学習者は自分の考えを主張することができず、主題に沿った議論ができなかった。	3-4	学習者は自分の考えを主張することができ、ほぼ主題に沿った議論ができた。	5	学習者は自分の考えを明確に主張することができ、十分に主題に沿った議論ができた。	
到達度レベル	内容										
0	レベル1の程度に満たない。										
1-2	学習者は自分の考えを主張することができず、主題に沿った議論ができなかった。										
3-4	学習者は自分の考えを主張することができ、ほぼ主題に沿った議論ができた。										
5	学習者は自分の考えを明確に主張することができ、十分に主題に沿った議論ができた。										

<規準C> 「2つの質問」との関連性

- ・発言内容は「2つの質問」と明確な関連性を示したものであったか。

到達度レベル	内 容
0	レベル1の程度に満たない。
1-2	発言内容は「2つの質問」に対し、ある程度関連性を持っていた。
3-4	発言内容は「2つの質問」に対し、十分な関連性を示していた。
5	発言内容は「2つの質問」に対し、明確で緊密な関連性を示していた。

(2) 形成的評価

教員は、毎回の授業において、生徒の授業参加度や宿題への取組を以下の評価規準に基づいて評価する。

評価	評価規準1：授業参加度に関して
5点	非常によい (Excellent) 常に生徒は時間を厳守し、事前準備を怠らず、集中力を切らすことなく意欲的に授業に参加している。また、コミュニケーションはすべて英語で行っている。
4点	良い (Good) 通常生徒は時間を守り、事前準備を行い、集中力を切らすことなく意欲的に授業に参加している。また、コミュニケーションは通常英語で行っている。
3点	普通 (Fair) 基本的に生徒は時間を守り、事前準備を行っている。また、集中力を切らさず、意欲的に授業に参加するよう努力している。コミュニケーションは基本的に英語で行なっている。
2点	悪い (Mediocre) 時々生徒は時間を守り、事前準備を行っている。また、集中力を切らさず、意欲的に授業に参加することもある。コミュニケーションは時々英語で行っている。
1点	非常に悪い (Poor) 生徒はめったに時間を守らず、事前準備も行わない。集中力を切らさず意欲的に授業に参加することはほとんどない。英語で話すこともまれである。
0点	1点に満たない内容。

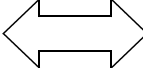

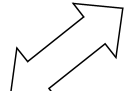
評価	評価規準2：ノートテイキング
5点	非常によい (Excellent) 生徒は常に講義や読み物の要点を効果的にノートに書き留められている。また、見やすく復習しやすいノート作りを徹底しており、内容はいつも整理されている。
4点	良い (Good) 生徒は大抵講義や読み物の要点をノートに書き留められている。また、見やすく復習しやすいノート作りを心がけており、内容も整理されている。
3点	普通 (Fair) 生徒は時々講義や読み物の要点をノートに書き留められている。また、



	見やすく復習しやすいノート作りを心がけており、内容も部分的には整理されている。
2点	悪い (Mediocre) 生徒は時々講義や読み物の要点をまとめている。指示があれば時々ノートの内容整理を行うが、多くの場合、書き留められた内容にまとまりは見られない。
1点	非常に悪い (Poor) 生徒はほとんど講義や読み物の要点をノートに書き留めない。また、指示があってもノートの内容整理はめったに行わず、書き留められた内容にまとまりは全く見られない。
0点	1点の内容を満たさない。

評価	評価規準3:日々の宿題
5点	非常によい (Excellent) 生徒は常に課題の提出期限を守る。生徒は常に質の高い課題を提出する。
4点	良い (Good) 生徒は通常課題の提出期限を守る。生徒は通常質の高い課題を提出する。
3点	普通 (Fair) 生徒は大抵課題の提出期限を守る。生徒は質の高い課題を提出するため、多少努力はしている。
2点	悪い (Mediocre) 生徒は時々課題の提出期限を守る。
1点	非常に悪い (Poor) 生徒はほとんど課題の提出期限を守らない。
0点	1点の内容を満たさない。

TOK 指導案 「知るための方法」に関する事例

<p>1 単元名 「知るための方法」としての言語</p>
<p>2 学年 高校2年 (一般コースの生徒を対象とした授業)</p>
<p>3 各概念の統合</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">「TOK」のどのような部分を学習するのか</p> <p>① 言語が知識の形成に影響を与えるということは本当か。</p> <p>② 私たちはどのように言語から意味を抽出するのか。</p> <p>③ 私たちが思考するとき、どのように言語を使用しているのか。</p> <p>④ バイリンガルやマルチリンガルの話者は違った言語を使用するとき、それぞれの言語の意味を認知する方法に何か違いはあるのか。</p> </div> <div style="text-align: center; width: 10%;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">生徒の理解が期待される概念</p> <p>① サピア=ウォーフの仮説※</p> <p>② 言語の特徴</p> <p>③ 意味の理論</p> <p>④ 言語における感情的な意味合い</p> <p>※サピア=ウォーフの仮説 いかなる言語によってでも現実世界は正しく把握できるものだという考えを疑い、言語はその話者の世界観の形成に差別的に關与していることを提唱する仮説。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center; width: 20%;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 60%; text-align: center;"> <p style="text-align: center;">学習活動における重視すべき視点</p> <p>① 全ての言語が共通する同じ意味の言葉を持たないのはなぜか。</p> <p>② 言葉の意味はどのように確定するのか。</p> <p>⑤ 言語は思考や物の見方にどのような影響を及ぼすのか。</p> <p>⑥ 複数言語を理解している強みとは何か。</p> <p>⑦ 異なった知識の領域から知識を得る場合、言語はどのように使われるのか。</p> </div> <div style="text-align: center; width: 20%;">  </div> </div>
<p>4 単元の目標</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言語とは何かを定義し、言語と非言語の例をそれぞれ幾つか挙げる。</li> <li>○ 生徒同士で確認した言語の定義から、人間以外の言語が言語として容認されるべきかどうかを議論する。</li> <li>○ 3つの意味の理論を学び、それぞれの価値について意見交換を行う。</li> <li>○ 意味の理論に対する理解を深め、自らの理論を構築する。</li> </ul>
<p>5 使用する教材等</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教員による導入部でのプレゼンテーション (資料4-2参照)</li> <li>② 教員が作成したワークシート (資料4-3、4参照)</li> <li>③ Richard van de Lagemaat(2005)「Theory of Knowledge for the IB Diploma」(Cambridge University Press)</li> <li>④ 言語学に関する最新の記事</li> </ul>

## 6 単元の指導過程

	学習活動	指導上の留意点及び評価
第1時限目	<p>(1) 教員が、単元の導入をプレゼンテーション形式で行い(資料4-2参照)、TOKダイアグラムを復習し、その中の「言語」について学んでいくことを説明し、その内容について生徒に質問する。</p> <p>(2) 教員は、グループごとに分かれた生徒に、言語について書かれた文の一覧※1を見せる。そして、各グループから代表者を一人ずつ指名し、指名された生徒は引用文の意味を分かりやすい言葉に直シクラスに説明する。</p> <p>例) Almost all education is language education. (教育のほとんどは言語教育である。)</p> <p>Who does not know another language does not know his own. (別の言語を知らない者は自分の言語も分かっていない。)</p>	<p>&lt;評価&gt;</p> <p><b>形成的評価</b></p> <p><b>評価規準1:授業への参加度</b> グループ活動への参加度を評価する。</p> <p><b>評価規準2:家庭学習課題</b> 生徒は、辞書を使わずに自分の言葉で「言語」の定義を書いてくる。</p> <p>※1教材③47ページ参照</p>
第2時限目	<p>(1) 教員は宿題を確認した後で、数名の生徒に、彼らの「言語」の定義をホワイトボードに書かせる。もし分からないことがある場合は、指名を受けた生徒同士で確認するよう指示する。</p> <p>(2) クラス全体で、最も適当だと思われる定義を一つ選ぶ。</p> <p>(3) 教員は、「Zoosh」ワークシートを生徒に配付する(資料4-3参照)。</p> <p>(4) 生徒は、ワークシートに書かれた文章がなぜ言語とみなされるのか、またなぜ言語とみなされないのかについて、彼らの「言語」の定義を基に、小グループで意見を交わす。</p> <p>(5) 教員は、言語が持つ3つの特徴(①言語は規則を持つ、②言語は意図された意味を持つ、③言語は創造的で限定的なものではない。)※2について説明する。</p>	<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <p>何が言語で何が言語でないかを考えることを通じて、言語の定義や性質について生徒の理解を求める。</p> <p>&lt;評価&gt;</p> <p><b>形成的評価</b></p> <p><b>評価規準1:授業への参加度</b> クラスでの話し合い活動やグループ活動への参加度を評価する。</p> <p><b>評価規準2:家庭学習課題</b> 生徒は、割り当てられた言語の特徴の一つについて、一段落で説明する文章を書いてくる。</p> <p>※2教材③48ページ参照</p>
第3時限目	<p>(1) 各グループで宿題の内容を確認し、下記の①～③について、それぞれが何を意味しているのか、各グループで議論する。最後にクラス全体として意見をまとめる。</p> <p>①言語は規則を持つ。</p> <p>②言語は意図された意味を持つ。</p> <p>③言語は創造的で限定的なものではない。</p>	<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <p>教員は宿題を確認しながら、生徒の質問に随時対応し、生徒の内容理解を助ける。</p> <p>&lt;評価&gt;</p> <p><b>形成的評価</b></p>

	<p>(2) 生徒は、(1) で議論した言語の特徴を表す例、そうでない例を、“Zoosh” ワークシート (資料 4-3 参照) を見ながら、それぞれいくつか挙げる。</p> <p>彼らの「言語」の定義から、「Zoosh」ワークシートの文章が、言語として成り立つかどうかについて、その理由とともに意見を述べる。</p> <p>(3) 最後に、生徒は、動物は言語を持っているかどうかについて議論を行う。</p>	<p><b>評価規準 1: 授業への参加度</b> クラスでの話し合い活動やグループ活動への参加度を評価する。</p> <p><b>評価規準 2: 家庭学習課題</b> 生徒は動物が言語を持つかということに関する 2 人の人物の対話の文章 (教材 ③ 79 ページ「Dialogue on Animal Language」参照) を読んでくる。</p>
<p><b>第 4 時限目</b></p>	<p>(1) 生徒は、宿題で読んだ文章について意見を述べる。</p> <p>(2) 教員は、生徒の前でジェスチャーを見せ、それが何を意味するのかを生徒に尋ねる。同じことを何度か繰り返し行う。そして、文化ごとに異なった意味を持っているジェスチャーを紹介する。</p> <p>例) 人を指さすジェスチャー、人を呼ぶときのジェスチャーなど (日本と欧米の違い)</p> <p>(3) 生徒は、グループで次のことについて意見を出し合う。</p> <p>「ジェスチャーは言語なのか。」 「手話は言語なのか。」 「表情は言語なのか。」</p>	<p>&lt;評価&gt; <b>形成的評価</b> <b>評価規準 1: 授業への参加度</b> クラスでの話し合い活動やグループ活動への参加度を評価する。</p>
<p><b>第 5 時限目</b></p>	<p>(1) 教員は「Language as a way of knowing」のワークシートを生徒に配付する (資料 4-4 参照)。生徒は 3 人 1 組になり、ワークシートの設問に答える。</p> <p>(2) クラス全体で設問の解答を確認する。</p> <p>(3) 指導者は、言語の意味に関する 3 つの理論 (① 定義理論 (the definition theory)、② 明示的意味論 (the denotation theory)、③ イメージ理論 (the image theory)) ※3 について、それぞれ例を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定義理論: 言葉の辞書的意味を調べること</li> <li>・ 明示的意味論: 意味のあるものと意味のないものを区別すること</li> <li>・ イメージ理論: 頭の中で何を指すのかをイメージできること</li> </ul>	<p>&lt;指導上の留意点&gt; どの理論も完璧に言語の意味を説明するのは困難であることについて生徒の理解を求める。</p> <p>&lt;評価&gt; <b>形成的評価</b> <b>評価規準 1: 授業への参加度</b> クラスでの話し合い活動への参加度を評価する。</p> <p><b>評価規準 2: 家庭学習課題</b> 生徒は、授業で話し合った「意味の理論」(授業で取り扱った 3 つの理論) の一つが割り当てられ、それについて明確な例を挙げて一段落で評論する。</p> <p>※3 教材 ③ 52 ~ 54 ページ「Theory of meaning」参照</p>

<p><b>第6時限目</b></p>	<p>(1) 指名された生徒は、自分が書いた「意味の理論」に対する評論を要約し発表する。</p> <p>(2) 教員は、ホワイトボード上に、以下の(a)～(e)の内容について、それぞれ例を提示する。</p> <p>(a) あいまいな言葉 例) A car is fast. The speed of light is fast.</p> <p>(b) 暗示的意味 例) She is a nice girl.</p> <p>(c) 婉曲的表現 例) He passed.</p> <p>(d) 隠喩的表現 例) She is an angel.</p> <p>(e) 慣用表現 例) A piece of cake.</p> <p>(3) 生徒は、上で挙げた言葉の意味を理解するのがなぜ困難なのかを考え、これらの言葉の問題点についてクラス全体で議論する。</p>	<p>&lt;指導上の留意点&gt; 教員は、生徒の発表に対する内容確認の質問を行い、発表者の要点が明確になるようにする。</p> <p>&lt;評価&gt; <u>形成的評価</u> <b>評価規準1:授業への参加度</b> クラスでの話し合い活動への参加度を評価する。 <b>評価規準2:家庭学習課題</b> 生徒の母国語に存在する慣用表現の中で、文化的な違いから他言語の話者には理解できないものを見つけてくる。</p>
<p><b>第7時限目</b></p>	<p>(1) 生徒は、宿題で見つけた慣用表現を、他の生徒と共有し、なぜそれらの表現が文化的に受け入れられないのかを話し合う。</p> <p>例) He died with his boots on.を日本語に直してみる。 (意味:彼は仕事に亡くなった。) with his boots on はどのような背景から来ている語なのか。</p> <p>(2) 婉曲的表現の理解を深めるため、教員は、第一次世界大戦で広く使われた婉曲的表現である「シェル・ショック」(最近では「心的外傷後ストレス障害」と言われる)についての講義を行う。</p> <p>(3) 軍事用語一覧※4を生徒に配付し、生徒はそこにある婉曲表現の表す真の意味を推測する。</p> <p>例) friendly fire (味方からの誤射) service a target (敵に爆弾を落とす) など</p>	<p>&lt;評価&gt; <u>形成的評価</u> <b>評価規準1:授業への参加度</b> クラスでの話し合い活動への参加度を評価する。 <b>評価規準2:家庭学習課題</b> 生徒は、広告やCMの中で、明らかに意図的に信じ込ませようとしているような語(loADED language)を含んでいると思われるものを探してくる。</p> <p>※4教材③75ページ参照</p>
<p><b>第8時限目</b></p>	<p>(1) 生徒が見つけてきた広告やCMをクラスで共有し、意図的に信じ込ませようとしているような語を含む表現を確認する。</p> <p>(2) 教員は、形容詞とその反意語を含む単語の一覧を配付し、各単語の意味が「肯定的」、「中立的」、「否定的」のいずれに該当するかを、生徒に確認させる。</p> <p>例) assertive / pushy</p>	<p>&lt;評価&gt; <u>形成的評価</u> <b>評価規準1:授業への参加度</b> クラスでの話し合い活動への参加度を評価する。 <b>評価規準2:家庭学習課題</b> 生徒は新聞のコラム欄を読み、文章中から論者の主張の伝達を助</p>

confident / arrogant	ける表現や、反対に妨げる表現を見付けだす。
(3) 教員は、政治家の演説を生徒に聞かせる。生徒は、その演説で使われている意図的に信じ込ませようとしているような表現を指摘する。	

## 7 評価規準（付けたい力）

### (1) 総括的評価

生徒は日本語と英語の両方で書かれた日本国憲法第9条を読み、条文内に見られる解釈の違いについて、600～800ワードの文章で書く。この課題は下記の判断規準（評価規準3：エッセイ課題）に従い、5段階でスコア付けされる。

各授業への参加態度（評価規準1）と授業で課される家庭学習課題（評価規準2）に対する評価も踏まえ、単元の目標が達成できたかを総括的に評価する。

### (2) 形成的評価

評価	評価規準1：授業への参加態度
5点	前向きな姿勢で授業に臨み、クラスの話し合い活動に積極的に参加することができた。授業の始業時間を厳守し、必要な教材も全て揃っていた。
4点	クラスの話し合い活動に自ら参加するときもあった。通常、授業の始業時間は守られており、必要な教材も全て揃っていた。
3点	求めに応じクラスの話し合い活動に参加する姿が見られた。基本的に、授業の始業時間は守られており、大体は授業に集中できていた。
2点	クラスの話し合い活動にはほとんど参加しなかった。授業に集中できているときもあったが、遅刻は多く、しばしば必要な教材なしで授業に臨んでいた。
1点	クラスの話し合い活動には参加せず、授業内容にも全く耳を傾けていなかった。遅刻は多く、しばしば必要な教材なしで授業に臨んでいた。
0点	上記の判断基準のいずれの内容にも到達していない。

評価	評価規準2：家庭学習課題
5点	全ての課題を提出し、その課題内容の質は、非常に高かった。
4点	全ての課題を提出し、その課題内容の質は高かった。
3点	全ての課題を提出し、その課題内容の質は期待に見合うものだった。
2点	時々、課題の提出を怠った。提出した課題内容の質は低いものだった。
1点	しばしば課題を提出しなかった。提出した課題内容の質は非常に低いものだった。
0点	上記の判断基準のいずれの内容にも到達していない。

評価	評価規準3：エッセイ課題
5点	授業内容を明確に理解し、適切な例を数多く挙げて説明することができた。
4点	授業内容を十分理解し、適切な例をいくつか挙げて説明することがで

	きた。
3点	授業内容を一定程度理解し、いくつか例をあげて説明することができた。
2点	授業内容に対する理解が乏しく、適切な例を挙げて説明することもできていなかった。
1点	授業内容を理解しておらず、適切な例を挙げて説明することもできていなかった。
0点	上記の判断基準のいずれの内容にも到達していない。

## TOK指導案 「知識の領域」に関する事例

1 単元名 「知識の領域」としての歴史

2 学年 高校2年（一般コースの生徒を対象とした授業）

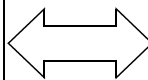
3 各概念の統合

### 「TOK」のどのような部分を学習するのか

- ①歴史とは、歴史的事実、あるいは「事実」だと信じられていることが、どの程度積み重ねられたものなのか。
- ②歴史を知ること、どのように私たちはプロパガンダから身を守ることができるのか。
- ③同一事実に関して、なぜ政党によって、全く異なる解釈を持つことがあるのか。
- ④私たちは、ある出来事が歴史的に重要な意味を持つかどうかを、何を根拠に決定しているのか。
- ⑤歴史形成に関して、個人が持つ影響力はどれ程あるのか。

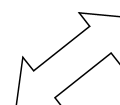
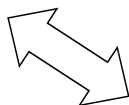
### 生徒の理解が期待される概念

- ①歴史の定義
- ②歴史的意義
- ③歴史に高い見識を持つ価値
- ④歴史的正確性の問題
- ⑤歴史解釈の問題
- ⑥歴史見直し論者の問題



### 学習活動における重視すべき視点

- ①あえて過去のことを学ぶのはなぜなのか。
- ②歴史的文献や歴史的出来事に関する証言を信用することができるのだろうか。
- ③なぜ歴史は書き直されることがあるのか。
- ④歴史は、唯一人間によって形成されるものなのか。
- ⑤将来の歴史家たちは、私たちの生きている時代の何を重要なものと認識するだろうか。



4 単元の目標

- 生徒は「歴史」を定義する。
- 生徒は異なる着眼点から歴史的事実に対する解釈を考察し、解明する。
- 生徒は異なる出来事の歴史的関連性を考察し、解明する。
- 生徒は歴史上の重要人物がもたらした貢献について議論する。

5 使用する教材等

- ①指導者による導入部でのパワーポイントプレゼンテーション（資料4－5参照）
- ②指導者が作成したワークシート（資料4－6参照）
- ③ Richard van de Lagemaat(2005)「Theory of Knowledge for the IB Diploma」(Cambridge University Press)
- ④生徒が使用する歴史の教科書



## 6 単元の指導過程

	学習活動	指導上の留意点及び評価
第1時限目	<p>(1) 教員は、単元のトピックのプレゼンテーション（資料4－5参照）を提示し、生徒に次の質問をし、生徒は自由に意見を述べる。 「私たちはある出来事の発生をどのような手段を通じて知るか。また、なぜその出来事を学ぶ必要があるのか。」</p> <p>(2) 生徒はグループに分かれ、歴史について述べた引用文の一覧※1を見る。教員は、各グループから一人ずつ指名し、それぞれの引用文の意味を分かりやすい言葉で説明するよう指示する。</p> <p>例) Who controls the past controls the future, who controls the present controls the past. (過去を支配する者が未来を支配し、現在を支配する者が過去を支配する。) Anybody can make history. Only a great man can write it. (誰でも歴史を作ることができるが、それを綴ることができるのは偉人だけだ。)</p>	<p>&lt;評価&gt; <u>形成的評価</u> 評価規準1:授業への参加度 クラスでの話し合い活動への参加度を評価する。 評価規準2:家庭学習課題 生徒は、「歴史」の定義を辞書を使わずに自分の言葉で書いてくる。 ※1教材③300ページ参照</p>
第2時限目	<p>(1) 教員は、数名の生徒を指名し「歴史」の定義をホワイトボードに板書するよう指示する。 (指名された生徒は、お互いに内容を確認し合っても構わない。)</p> <p>(2) ホワイトボードに書かれた定義の中から、最も適当だと思われるものをクラスで一つ選ぶ。</p> <p>(3) 教員は、次の文を板書し、この文の内容が正しいかどうか、理由を考え、クラスで意見を出し合う。 「クリストファー・コロンブスは1492年にアメリカ大陸を発見した。」</p>	<p>&lt;評価&gt; <u>形成的評価</u> 評価規準1:授業への参加度 クラスでの話し合い活動への参加度を評価する。 評価規準2:家庭学習課題 次の課題について一段落で考えをまとめる。 「ストーンヘンジが建てられた方法について書く課題が出されたとします。あなたはこの課題を行う上で、どのような困難に直面すると考えますか。」</p>
第3時限目	<p>(1) 教員は、宿題を確認する。そして、誰が、どのような方法でストーンヘンジを建造したかを知る証拠はなく、未だ謎であるということをクラスで確認する。</p> <p>(2) 生徒は、ストーンヘンジの場合とは反対に、過剰な情報量が原因で説明に困る事例を、グループで考える。 例) 2008年アメリカ合衆国大統領選挙</p> <p>(3) 教員は、生徒にワークシート（資料4－6参照）を配付し、その内容について説明する。</p>	<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報が過小であったり、逆に過剰であったりすることにより生じる問題を意識させる。また、そのような問題が歴史や科学などの教科にもつながっていくことについて生徒の理解を求める。</li> <li>・授業中にワークシートを終わらせられなかった場合は残りを宿題とする。</li> </ul>

	<p>生徒はワークシートの設問に取り組む。</p>	<p>&lt;評価&gt;  <b>形成的評価</b>  <b>評価規準1:授業への参加度</b>          クラスでの話し合い活動やグループ活動への参加度を評価する。</p>
<p><b>第4時限目</b></p>	<p>(1) 前回の授業で取り組んだワークシートの内容に関して、生徒は自由に意見を述べる。ワークシートに列挙された出来事の重要さを順位づけし、クラス全員の合意を得る。</p> <p>(2) 生徒は、グループで、歴史を学ぶ理由について話し合う。</p> <p>(3) 情報源の問題：指導者は、一次資料と二次資料※について説明する。生徒はグループでそれぞれの問題点について考えを出し合う。</p> <p>※一次資料：実際にその出来事が起こった当時それを目撃した人々による記録</p> <p>※二次資料：一次資料を基に、一定時間を経てから書かれた記録</p>	<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このディスカッションを通して、生徒から次の3つの理由が挙がることを期待する。</li> <li>社会に生きる自らのアイデンティティを強固にする。</li> <li>不当な政策や方策から身を守る。</li> <li>人間性についての理解を深める。</li> </ul> <p>&lt;評価&gt;  <b>形成的評価</b>  <b>評価規準1:授業への参加度</b>          クラスでの話し合い活動やグループ活動への参加度を評価する。</p> <p><b>評価規準2:家庭学習課題</b></p> <p>(1) 生徒は、「歴史を学ぶ利点」(アイデンティティの自覚、プロバカンダに対する防御、人間性の理解)についての内容を読んでくる。(教材③304～307ページ参照)</p> <p>(2) 生徒は、「歴史を知らない者はそれを繰り返す羽目になる。」という言葉を取りあげ、この言葉が示す具体例、また逆行する例をそれぞれ挙げる。</p>
<p><b>第5時限目</b></p>	<p>(1) 指導者は、生徒に最近の新聞記事を配り、その内容を生徒と確認し、文章中から以下の3つの点が見られる箇所を探すよう指示する。</p> <p>①「選択バイアス」          話題性のあるトピックが偏重されていること</p> <p>②「確証バイアス」          結論が先にあり、自分の論理をサポートするものしか受け付けないこと</p> <p>③「国民的バイアス」          文化的・政治的背景に伴う偏見や先入観</p> <p>(2) クラス全体で、この記事に見られるバイアスの意味について話し合い、それらのバイアスが排除可能なものかどうかを討議する。</p> <p>(3) 生徒は、数冊の歴史の教科書にざっと目を</p>	<p>&lt;評価&gt;  <b>形成的評価</b>  <b>評価規準1:授業への参加度</b>          クラスでの話し合い活動への参加度を評価する。</p>

	<p>通し、(1)と同じ活動をする。</p> <p>(4) 歴史に見られるバイアスの問題や、それらのバイアスを排除するための方法について、クラスで話し合う。</p>	
<p><b>第6時限目</b></p>	<p>(1) 教員は、9・11同時多発テロが起こった理由について書かれたワークシート(資料4-6参照)を生徒に配る。生徒は、歴史的に見てどの理由が正当で、またどれがそうでないかを判断する。</p> <p>(2) 教員は、生徒の解答に対して意見を述べた後、異なったいくつかの歴史形成に利用された理論をいくつか紹介する(歴史は様々な要因から形成されたものだとする考え方、偉人理論、経済的決定論など)。</p> <p>(3) 最近のニュースから身近な話題を取り上げ、なぜそれが起きてしまったのか、生徒は考えられる原因を箇条書きでまとめ、宿題で使用するリストを作成する。</p>	<p><b>&lt;指導上の留意点&gt;</b></p> <p>取り上げるニュースは、多角的に原因が想定されるものを選ぶ。</p> <p><b>&lt;評価&gt;</b></p> <p><b>形成的評価</b></p> <p><b>評価規準1:授業への参加度</b></p> <p>クラスでの話し合い活動への参加度を評価する。</p> <p><b>評価規準2:家庭学習</b></p> <p>生徒は、取り上げたニュースの原因を説明するものとして、授業で取り扱った理論のうち、どの理論が最も有効であるかを決定し、二段落で説明する。</p>
<p><b>第7時限目</b></p>	<p>(1) 教員は、宿題を確認し、クラスでその内容について話し合う。</p> <p>(2) 教員は、次の質問を生徒に投げかける。</p> <p>「長い歴史の中で、多くの人間が様々な過ちを犯してきたが、その中で誰による過ちが最も重いと考えられますか。」</p> <p>(3) 生徒は、過ちを犯したと考えられる歴史上の人物を挙げ、その中から投票によって最も重い過ちを犯した人を決める。</p> <p>(4) 教員は、クラスで選んだ歴史家に対して、たとえ悪い評価をされている人であっても、その人間の言葉や行為に共感を示すべきであるという考えを生徒に示し、次の授業で行う模擬裁判について説明する。</p>	<p><b>&lt;評価&gt;</b></p> <p><b>形成的評価</b></p> <p><b>評価規準1:授業への参加度</b></p> <p>クラスでの話し合い活動への参加度を評価する。</p>
<p><b>第8時限目</b></p>	<p>(1) 7時限目に選んだ歴史上の人物の模擬裁判を行う。ただし、その人物を起訴するのではなく、弁護するための裁判で、生徒はグループで弁護に必要な主張のリストをまとめる。この活動を通して、生徒に共感体験をさせる。</p>	<p><b>&lt;指導上の留意点&gt;</b></p> <p>教員は、答弁で生徒がどのように理性的、感情的、そして論理的な論を展開していたかを確認し、模擬裁判を総括する。</p> <p><b>&lt;評価&gt;</b></p> <p><b>形成的評価</b></p> <p><b>評価規準1:授業への参加度</b></p> <p>クラスでの話し合い活動への参加度を評価する。</p>

## 7 評価基準(付けたい力)

### (1)総括的評価

国家間での歴史に対する認識の不一致について、歴史学者がこれらの問題を解決するためにどのような支援ができるか、600～800ワードの文章で書く。この課題は下記の判断基準（評価基準3：エッセイ課題）に従い、5段階でスコア付けされる。

各授業への参加態度（評価基準1）と授業で課される家庭学習課題（評価基準2）に対する評価も踏まえ、単元の目標が達成できたかを総括的に評価する。

### (2)形成的評価

評価	評価基準1:授業への参加態度
5点	前向きな姿勢で授業に臨み、クラスの話し合い活動に積極的に参加することができた。授業の始業時間を厳守し、必要な教材も全て揃っていた。
4点	クラスの話し合い活動に自ら参加するときもあった。通常、授業の始業時間は守られており、必要な教材も全て揃っていた。
3点	求めに応じクラスの話し合い活動に参加する姿が見られた。基本的に、授業の始業時間は守られており、大体は授業に集中できていた。
2点	クラスの話し合い活動にはほとんど参加しなかった。授業に集中できているときもあったが、遅刻は多く、しばしば必要な教材なしで授業に臨んでいた。
1点	クラスの話し合い活動には参加せず、授業内容にも全く耳を傾けていなかった。遅刻は多く、しばしば必要な教材なしで授業に臨んでいた。
0点	上記の判断基準のいずれの内容にも到達していない。

評価	評価基準2:家庭学習課題
5点	全ての課題を提出し、その課題内容の質は、非常に高かった。
4点	全ての課題を提出し、その課題内容の質は高かった。
3点	全ての課題を提出し、その課題内容の質は期待に見合うものだった。
2点	時々、課題の提出を怠った。提出した課題内容の質は低いものだった。
1点	しばしば課題を提出しなかった。提出した課題内容の質は非常に低いものだった。
0点	上記の判断基準のいずれの内容にも到達していない。

評価	評価基準3:エッセイ課題
5点	授業内容を明確に理解し、適切な例を数多く挙げて説明することができた。
4点	授業内容を十分理解し、適切な例をいくつか挙げて説明することができた。
3点	授業内容を一定程度理解し、いくつか例をあげて説明することができた。
2点	授業内容に対する理解が乏しく、適切な例を挙げて説明することもできていなかった。
1点	授業内容を理解しておらず、適切な例を挙げて説明することもできていなかった。
0点	上記の判断基準のいずれの内容にも到達していない。